

ポテタウン南の沢
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502181		
法人名	株式会社グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテタウン南の沢		
所在地	札幌市南区南の沢1822-63		
自己評価作成日	令和6年3月15日	評価結果市町村受理日	令和7年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502181-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ポテタウン南の沢付近は自然豊かな住宅地の中にあります。
河川敷沿いに遊歩道があり利用者様と職員と一緒に散歩を楽しんでいます。
玄関横には、小さな畑を耕し野菜やお花を皆様で育て、収穫しています。
近所の食堂へお誕生会などの特別なメニューを用意して頂き、大変喜ばれています。
また、夏には庭でBBQを開催しご家族の皆様や地域の方々にも参加していただき楽しい時間を過ごしております。
冬には鹿がホームの前を横切っておりました。
自然豊かな環境で、穏やかに日々の生活を過ごしていただいております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の自然豊かな住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。近くに小学校や福祉施設、福祉会館などがあり、バス停も近い。建物は家庭的な造りで、1階に居間と食堂、2階の中心部には広い空間があり、各階にトイレが2か所設置されている。居間の大きな窓からは、山並みの美しい風景を眺めることができる。壁の装飾や置かれている調度品は家庭的で親しみやすいものが設置されている。利用者は主に共用空間に集まって過ごしており、午前と午後のレクリエーションでは利用者同士、職員と利用者が楽しく話し合っている。定例会議や申し送りでの職員同士のコミュニケーションも良好である。職員は理念をよく理解し、日々の業務にあたっている。ケアマネジメントの面では、介護計画の定期的な更新が行われ、職員は計画目標を意識して日々の記録を作成している。排泄や入浴に関して、比較的自立している利用者が多いのも特長であり、日ごろの支援が成果となって表れている。昨年、新たな管理者が着任し、サービスの向上に向けて積極的に取り組んでいる。感染症が落ち着いたら、地域交流や外出行事をより活発に行いたいと考えている。快適な環境と温かな支援のもと利用者が楽しく生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して入居者様は穏やかに過ごして頂けるよう確認し地域と交流している	3項目からなる事業所理念の中に「住み慣れた地域での安心した暮らし」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を共用スペースに掲示し、会議等で確認している。職員は理念を把握している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・民生委員の方々に定期的に会議に出席していただき連携を密にしており交流させていただいております	散歩の際に住民と挨拶を交わしている。幼稚園児が事業所前を通るので、手を振って交流している。感染症流行により地域交流が減っていたが、今年度は地域のお祭りに参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進運営会議に出席して頂き認知症への理解を深める話の場を設けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括様より地域の方々に認知症について理解や接し方を教えて頂く場を設けている	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会関係者、民生委員、利用者家族の参加を得ている。会議の中で身体拘束や感染症の勉強会を行っている。議事録を家族に送付している。	会議のテーマについて災害対策やサービス評価など、より幅広く取り上げることが期待したい。また、テーマに関する簡単な資料も用意し、活発な意見交換を行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課の担当医様と密に電話やメールにてやり取りさせていただいております。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得て情報提供を受けている。市や区には、介護認定や生活保護、おむつサービスの利用などで手続きや相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておりません(夜勤帯を除く)車椅子の方は一日1～2回歩行訓練を行っております	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的行為を示した指針を用意し、身体拘束に関する年4回の適正化委員会と年2回以上の研修を行っている。委員会議事録や勉強会資料は整備できていない面もある。玄関は日中施錠せず、自由に入りができる。	委員会議事録に、参加できなかった職員が内容を確認したことを示す表示を期待したい。また、勉強会の次第や資料について、見やすく整理し保管することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、職員全員定期的に勉強会を開いております		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時に理念と10の基本ケアを確認し入居者様には穏やかな暮らしを送れるよう支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は丁寧に行っており、疑問や質問にはすぐに対応しております		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族の要望、疑問につきましては、内容をよく聞いて改善の方向に向けて取り組んでおります	家族の来訪の際に話をしたり、メールで意見を聞いている。得られた意見を連絡ノートに記載し、月例会議で共有している。家族意見をもとに事故対策メモの設置を行った。利用者の写真や個別のお便りを家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の要望や疑問点は職員全体で話し合う機会を設けて改善できるように取り組んでおります	毎月および毎週の会議で、職員が活発に意見交換している。管理者と職員は随時、話し合いの場を持っている。運営に関するリーダーを毎日交代し、運営に関する意見や提案を出しやすくしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の改善に関して自由に意見を言える環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会には、出来る限り職員全員が参加出来るようにシフトの変更など臨機応変に対応しています また内部研修も定期的に行っております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括様、管理者会議での交流の場で情報を収集しサービスの質の向上に努めております		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間の許す限り本人に寄り添い信頼関係を築いていけるよう努めております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いをくみ取りながら出来る限り思いに応じられるよう努めていく事を説明し納得していただいております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の体調や精神状態、要望等を理解し情報を共有し他のサービス利用も含め対応できる様務めて」おります		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを把握し(掃除・洗濯・家事)など一緒に取り組んでおります		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院その他外泊、外出、外食等のサポートをお願いしたり、面会や電話連絡等をして頂けるようお願いしております		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親しい方との手紙のやり取りや電話連絡を取られたり、一緒に外出などの交流がとぎれない様務めます	数名の利用者に友人や知人、親戚などが来訪している。家族と一緒に法事に出かける方もいる。感染症流行前は近くの福祉会館が馴染みの場所になっており、感染症が落ち着いたらまた利用したいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士でTV鑑賞や、楽しい会話を出来るように支援しております		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に電話などで近況などを伺ったりさせていただいております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や受診、外出など困難な場合など職員で検討し対応出来るように努めております	8割ほどの利用者が思いや意向を表出でき、難しい場合も表情や反応から把握している。アセスメントシートに生活歴を記載しているが、趣味や嗜好の記載は行えていない。	利用者の趣味や嗜好を把握し、アセスメントシート等に欄を設け、利用者の趣味や嗜好について記載し共有することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人個人の生活歴や暮らしの状況を把握し生活環境を整えております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日一日の過ごし方や心身状態を記入し申し送りして共有し現状の把握に努めております		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、職員と短期・長期のモニタリングをおこなう本人やご家族様の意見を反映し課題となる問題を考慮した介護計画を作成している	介護計画を3か月ごとに更新している。モニタリング評価表にそって話し合い、次の計画を作成している。今後、モニタリング評価表の添付を徹底する予定である。タブレット端末の日々の記録は、計画目標の番号を記入しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア、様子を記録し月例会での検討、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化、環境による変化等におこるニーズに対応しドアホンの設置や見守り等強化しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のイベントや行事に参加させていただいたり、散歩等にお声がけ頂いたり地域の方々との交流させていただいております		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、本人の要望や疑問等を主治医に伝え理解していただいております	全利用者が2週に1回の協力医による往診を受け、他の通院は家族または事業所が支援している。受診内容をタブレット端末に記載して共有している。	

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態、入居者様の変化を報告・相談し対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	24時間対応の医療機関、入退院については連携しております		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医ご家族訪問看護との話し合い介護職員は積極的に支援に取り組んでおります	利用開始時に「重度化対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。過去に看取りを行っていないが、今後は条件が整えば行う方針であり、看取りの勉強会の開催も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、職場近くの職員が迅速に駆けつける体制にしております		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に実施し災害に対する心構えをしっかりと持ち迅速に対応するよう努めております	年2回、避難訓練を実施している。今後、夜間想定や防災センターによる指導を受けての開催も予定している。訓練への地域の方の参加、救急救命訓練の実施、地震の初期対応などは今後の課題である。必要な備蓄品を用意している。	①災害時における近隣福祉施設との協力体制の確立、②定期的な救急救命訓練の実施、③地震の初期対応や危険箇所等の確認、について計画的な取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の見守りに配慮しています	利用者を「さん」づけで呼びかけている。言葉遣いなどの研修を実施している。申し送りは番号やイニシャルで行い、個人記録も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな変化や表情を感じとりご本人の想いを大切にかんがえる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事もまずはご本人の希望を傾聴し柔軟な対応を心がけています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の要望に応えながら、天気や気温に対応し洋服を選んでいただいております		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	バランスや栄養面を考え季節に合わせたメニューの提供をしている一人一人の食べやすい形状での提供を心がけています	おかず類は調理済みの物を利用しているが、年間行事に合わせた献立になっている。利用者とお好み焼きパーティーをしたり、誕生日はケーキでお祝いでいる。利用者は食器洗いなど手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事形態に細かく対応し、水分摂取量は一日単位で集計し共有しております		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕食後歯磨きをおこなっております。就寝前には、義歯を洗浄剤につけ清潔を保っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの入居者様に合わせた排泄の見守りをし、リハビリパンツやパットを使用している方には、個々のペースに合わせトイレ誘導を行う	自立している方が多いが、全員の排泄状況をタブレット端末に記録し、状況を見ながら声かけや誘導を行っている。全員、昼夜ともにトイレでの排泄が可能であるが、時間帯に応じて排泄用品を調整している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し、水分摂取を促す。乳酸菌飲料をおやつの時間に提供する対応を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は曜日で決められていますが利用者様の身体状況や体調によって曜日を変更、入浴方法や時間の変更を行っております	日曜日以外の午前中を中心に、一人週2回の入浴を支援している。ほぼ自立している方が多いため、部分的に支援して見守りで入浴を楽しんでいる。入浴剤を使用したり、好みの湯加減でゆっくり湯船に浸かっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安心して休息できる環境を提供できるよう居室の清掃やベット環境の整備を行っております。利用者様が不安を訴えた際には付き添いや見守り行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時には利用者様の状態を報告して、症状やバイタルサインの異常に関して処方された内服薬の内容を職員間で情報共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が安全に楽しめるようなレクリエーションを考案、実施行い、快晴時には散歩や外食を行い、季節ごとに行事を行っております。		

ポテトタウン南の沢

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の際には家族と連携をとり、外出の準備を行っております。本人より突発的な外出の訴えがあった際は時間や状況をみて散歩を行う対応をしております。	普段は事業所周辺を散歩したり、花見や紅葉見学で盤溪や定山溪方面に出かけている。冬季も、家族と一緒に通院や買い物、外食などに出かける利用者がいる。今後は、年間を通して事業所としての外出行事を増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える利用者様に関しては紛失のリスク等を考慮し少額で管理していただいておりますが、本人が金銭を使用するという支援は行っておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡がとれる様本人で携帯を管理して頂いております。連絡方法がわからない、管理が困難な利用者様に関しては電話をかける等支援行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は景観が眺められるようカーテンを開けて自然光が入る様務めております。入浴やトイレに関しても排泄支援時に介入した際に清潔が保持出来るよう、都度清掃行っております。利用者様の不安感や焦燥感が強い際は自室へ誘導し落ち着けるよう対応しております。	対面式のキッチンから居間や食堂の様子が見渡せる造りになっている。居間の窓から戸外の景色を見ることができ、四季の移り変わりを感じながら過ごすことができる。壁には利用者と一緒に制作した季節の装飾や干支の絵馬、手作りの日めくりカレンダーなどがかけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファ、食卓を設置しており、利用者様の状況を観察しながら誘導行っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が安心できる環境を提供する為に入居時に嗜好や生活リズムを把握し、それまで使用していた家具を搬入して頂きそのまま使用する等対応しております。	各居室にベッドとストーブが備え付けられている。使い慣れたタンスやテーブル、テレビなどを持ち込んでいる。家族からのプレゼントや好きな小物類を飾り、本人が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に声掛けを行い食器拭きや衣類をたたむ、居室やリビングの掃除のお手伝いを促し、生活機能が保たれるよう働きかけております。		